



枝川小だより

やればできる
自分で考え、行動し、
決める場面を多く設定しよう

新米を収穫しました（5・6年 稲刈り、脱穀体験）

9月15日（火）の3校時、雨の合間を縫って5・6年生が稲刈りを行いました。校務員の寺門さんから稲刈りの方法や作業上の注意点を教えていただき、子どもたちは協力しながら手際よく作業を進めました。約20分で刈り取りから「おだかけ」まで終えることができました。並んだ稲が風に揺れる様子からも、実りの秋を感じました。その後も雨の日が多く、稲の乾燥が進まなかったため、脱穀までには少し時間がかかりました。

稲刈りから約3週間後の10月7日（水）、ようやく天日干しを終えた稲の脱穀体験を行いました。今回は学校運営協議会委員の川又 宣夫様のお宅に伺い、機械を使って粃（もみ）を取り出す「脱穀」の作業を体験しました。子どもたちは、稲に粃が残っていないか一つ一つ丁寧に確認しながら、真剣に作業に取り組みました。今年収穫できた粃は約11kg（昨年比 +3.5kg）。稲刈りから脱穀までの体験を通して、収穫の喜びを味わうことができました。

これから粃すり、精米を経て、いよいよ自分たちで育てたお米を味わう日を迎えます。子どもたちは今から楽しみにしています。



電子顕微鏡で小さな世界を観察しました

9月30日（水）の午前中、5・6年生を対象に、（株）日立ハイテックの皆様による「電子顕微鏡を使った授業」を行いました。

子どもたちは、最大3万倍まで拡大できる電子顕微鏡を実際に使い、チョウの鱗粉など、普段は見ることでできない小さな世界を観察しました。画面に映し出された細かな様子に驚きながら、興味深く観察する姿が見られました。また、電子顕微鏡を使った研究が、私たちの身近な生活にも生かされていることを学びました。例えば、ヨーグルトのふたにヨーグルトが付きにくい工夫は、ハスの葉の表面を観察したことから生まれているそうです。

実際に観察する体験を通して、身近なものに隠された科学の仕組みや、科学の面白さ・可能性に触れる貴重な学習となりました。



「全国学力・学習状況調査」の結果と前期『いちよう』について

4月16日（木）に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果が、7月末に文部科学省から公表されました。本校6年生の平均正答率は、国語、算数とも全国平均を「大きく上回っている」状況です。一方、校内で分析した結果、文章の内容を的確に捉えて必要な情報を選択し、根拠を明確にしながら要約したり、自分の考えを一定の条件に沿って書いたりすることに課題が見られました。今後の学習指導で補充と深化を図ってまいります。

前期の通信票『いちよう』を10月9日（金）にお子様にお渡しします。保護者の皆様には以前「学習指導要領における学習評価」のリーフレットを配付しておりますが、その内容をあらためてご確認ください。お手元がない場合は、本市教育委員会のウェブページに掲載されていますので、ご覧ください。<https://www.city.hitachinaka.lg.jp/kosodate/kyouiku/1002249/1002232.html>